

再 評 価 調 書

I 事業概要					
事業名	街路事業				
地区名	都市計画道路 <small>きたおわりちゅうおうどう あさみやきたいま</small> 北尾張中央道 (朝宮北今・1工区)				
事業箇所	<small>はぎわらちよう</small> 一宮市萩原町				
事業のあらまし	<p>都市計画道路 <small>きたおわりちゅうおうどう いちのみや</small> 北尾張中央道は、<small>こまき</small> 一宮市を起点とし、<small>かすがい</small> 小牧市を経て春日井市に至る主要幹線道路であり、<small>なごや</small> 名古屋市周辺の主要都市や国道 22 号・国道 41 号等の幹線道路を結ぶ環状機能を有し、生活・産業を支える重要な路線である。</p> <p>本事業区間は、国道 155 号と主要地方道大垣一宮線 <small>おおがきいちのみや</small> を結び、尾張西部地域の重要な南北軸を担う区間の一部となっている。しかしながら、現道の幅員が狭小であり、車両のすれ違いが困難なことから円滑な交通の確保が求められている。</p> <p>また、<small>はぎわら</small> 萩原小学校の通学路に指定されているにも関わらず、歩道が未整備であり、通学児童をはじめとする歩行者等の安全確保が課題となっている。</p> <p>このため、「市街地の交通円滑化」及び「安全な歩行空間の確保」を主な目的として、バイパス整備を実施するものである。</p>				
事業目標	<p>【達成（主要）目標】</p> <p>① 地域の活性化（市街地の交通円滑化）</p> <p>② 交通事故対策の推進（安全な歩行空間の確保）</p> <p>【副次目標】</p> <p>—</p>				
計画変更の推移		事前評価時 (2020 年度)	再評価時 (2025 年度)	変動要因の分析	
	事業期間	2021 年度～2027 年度	2021 年度～2032 年度	用地交渉に時間を要したことによる延伸	
	事業費（億円）	9.8	9.8		
	経費内訳	工事費	1.1	1.1	
		用補費	6.1	6.1	
その他		2.6	2.6		
事業内容	道路整備 延長 L=300m 幅員 W=23.0～26.0m 4 車線	道路整備 延長 L=204m 幅員 W=26.0m 2 車線	事業計画の見直しにより、延長及び車線数を変更		

II 評価	
①事業の必要性の変化	<p>1) 必要性の変化</p> <p>【事前評価時の状況】</p> <p>① 尾張西部地域の南北方向の交通円滑化 当該区間の現道の県道萩原三条北方線は、歩道がなく車両のすれ違いも困難な非常に狭い道路であるものの、混雑度が1.31（H27 道路交通センサス）と慢性的な渋滞が発生しており、交通の円滑化が求められている。</p> <p>② 交通安全対策の強化 近隣に萩原小学校があり、現状は当該事業区間の狭い現道を通学路としている危険な状況である。 また、沿道には住居等が連立しており、歩行者等の通行が多い。</p> <p>【再評価時の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前評価時より必要性に大きな変化はない。 <p>【変動要因の分析】</p> <p>大きな変動要因はない</p>
	<p>判定</p> <p>B</p> <p>A： 事業着手時に比べ必要性が増大している。 B： 事業着手時に比べ必要性にほとんど変化がない。 C： 事業着手時に比べ必要性が著しく低下している。 ※事業着手時と比較することが適当ではないと判断される場合は、「事業着手時」を「前回評価時」に置き換えることができる。</p> <p>【理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性に変化はなく、引き続き、整備が必要である。

1) 進捗状況

【事業計画及び実績】

		2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	合計
工種 区分	調査・設計	←-----→												
	用地補償	←-----→												
	工事	←-----→												
事業費 (億円)	前回計画	7.2			2.6									9.8
	実績	1.2									1.2		1.2	
	今回計画	1.2			5.3						3.3		9.8	

【進捗率】

	これまでの計画に対する達成状況			全体進捗率	
	計画 【①】	実績 【②】	達成率(%) 【②÷①】	計画 【③】	達成率(%) 【②÷③】
延長(km)	0.0	0.0	-	0.2	-
事業費(億円)	7.2	1.2	17%	9.8	12%
工事費	0.0	0.0	-	0.1	-
用地費	4.0	0.6	15%	6.1	10%
その他	3.2	0.6	19%	2.6	23%

※面積ベースの用地取得率は約54%

【施工済みの内容】

- ・施工済みの区間はなし

2) 未着手又は長期化の理由

- ・用地交渉に時間を要しているため、事業が長期化している。

3) 今後の事業進捗の見込み

【阻害要因】

- ・用地交渉に時間を要している。

【今後の見込み】

- ・2032年度までに整備が完了する予定である。

判定

B

- A：これまで事業は順調であり、引き続き計画通り確実な感性が見込まれる。
- B：次のいずれか（該当する項目に「○印」を付ける）
- ・これまで事業は順調である。今後は多少の阻害要因が見込まれるものの、一定の期間等を要すれば、解決できる見通しがあり、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。
 - ・これまで事業が長期化していたが、事業期間を延長したことにより、今後は阻害要因がなく、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。
 - これまで事業長期化により、事業期間を延長した。今後も多少の阻害要因が見込まれるが、一定の期間等を要すれば、解決できる見通しがあり、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。
- C：阻害要因の解決が困難で、現時点では、事業進捗の目処がたたない。

【理由】・用地交渉に時間を要している箇所はあるものの、用地を取得できる見通しがあり、2032年度までに整備完了が見込まれるため。

Ⅲ 対応方針	
継続	中止：上記①～③の評価で一つでもC判定があるもの。 継続：上記以外のもの。
Ⅳ 事後評価実施の有無と主な評価内容	
■対象（事業完了後 5年目） <input type="checkbox"/> 対象外 【事業完了後5年を越えて実施する理由・対象外の理由】 — 【主な評価内容】 ・交通量（全車、大型車）、旅行速度、安全確保の状況	